

帯広編 畜舎環境衛生用資材

エスカリウのユーザー訪問

十勝西部のM牧場では、数年前から周辺の酪農家さんが「トンネル換気」や「牛床へのゴムチップマット敷設」を積極的に進め、その牛舎が非常に快適な事に驚き、「カウ・コンフォート」の概念に必然性を感じるようになりました。しかし、M牧場の牛舎は数回にわたる増築でL字型になっており、それぞれの段階で断面積が異なることから、トンネル換気を導入しても最大限の効果が得られるかどうか疑問がありました。そこで既設のダクトを活用しつつ、畜舎環境を改善するために「エスカリウ」を牛舎内に散布する事を始めました。「先ず効果を実感する事が出来たのは、夏場の朝牛舎に入った時、いつものふん尿の臭い(アンモニア臭)が少なくなっている事に気付いた。また、冬場は逆に窓を閉切ってしまうため、牛舎内の湿度が高くなり結露がひどかったが、エスカリウを散布していればそれを防ぐ事が出来る。温度をコントロールするのは難しいが、臭いと湿気については何か対策を行いた

いと考えていた。飼料採食量の低下防止に役買っている。」との評価を頂きました。これは20gで一、〇〇〇㎡の表面積を持つ多孔隙で「白い活性炭」の別名を持つエスカリウの効果が十分に発揮されたことによるものと思われま

また、毎日エスカリウを散布するのは確かに手間がかかるが、散布しながら牛の状態を頭一頭確認する事を心がける様になった。これによって、疾病の早期発見、発情チェックの強化につなげていければ、と副次的な効果にも期待を寄せていただいております。「何よりもうれしかったのは、晩の搾乳が終わって家上がった時、子供たちに『臭い』と言われなくなった事。カウ・コンフォートを追求していけば、ヒューマン・コンフォートにも必ずつながって行くはず。」と語っていただきました。

十勝南部T牧場では、牛の運動不足とストレスを少しでも解消するために、朝と晩の搾乳の間はパドックへ放す方式を採用していました。ただし、出し入れの際、牛

が通路で足を滑らせ、股開き・乳頭損傷等の事故が年間数回発生し、手塩に掛けて育成した大事な初産牛が、これからと言うときに廃用になってしまった、という苦い経験もありました。滑り止めのためにタンカル等を散布した時期もありましたが、湿気が多い時期もあってヌルヌルして滑りやすくなってしまう事から散布を取り止めた、恐る恐る出し入れ作業を行ってまいりました。二年程前よりエスカリウをご利用頂いておりますが、吸水力に優れているため、通路に散布すると歩きやすくなるのが人間でも実感できる。散布時も顆粒状でサラサラしているため、石灰散布機を使っても中で詰まることもなく、作業しやすい、とハンドリング面でも問題なくご活用頂いております。また、通路が白くなっているとうんなどの汚れが目立つため、除ふん作業を丁寧に行うようになり、結果として牛舎内が綺麗になった。他人に牛舎を見ても恥ずかしくない状態が出来上がりました。現在は、通路のみでなく、牛床や敷料の上に散布することによって乾燥した状態を保ち、様々な雑菌の繁殖を抑えることに

よって、乳房炎の予防にも活用して頂いております。

ここ数年、各地の酪農家さんから、多くの育成牛を抱えているにも係わらず、外部から初妊牛を導入しなければならぬくらい搾乳牛の更新率が高い、との悩みの声を多く聞くようになりました。「一乳期の乳量を(意図的に)若干落としてやれば、もう一産余計に搾れる」という考えは、必ずしも間違っているとはいえませんが、牛のストレスを軽減してやれば、その牛本来の能力を存分に発揮させることが出来るのではないのでしょうか。いずれにしても健康な牛に良質な牛乳を出してもらうことは、経営改善のための正しい道筋であると感じております。また、このことが近年カウ・コンフォートに脚光が集まっている一因ではないでしょうか。様々なアプローチの手法がありますが、エスカリウをその一助としてご活用頂ければ幸いです。

(帯広営業所 宮本)

雪印種苗株式会社

編集発行人 菊地 庸

本社 062-8650 札幌市豊平区美園二条一丁目

TEL (011) 831-1161

FAX (011) 821-2582